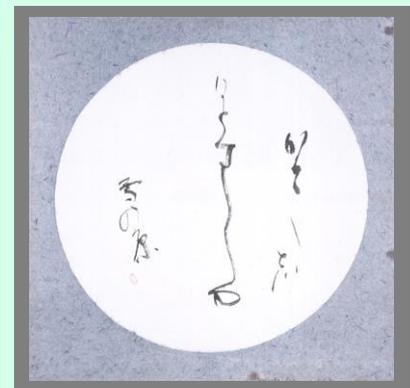


アンバランスの中のバランス

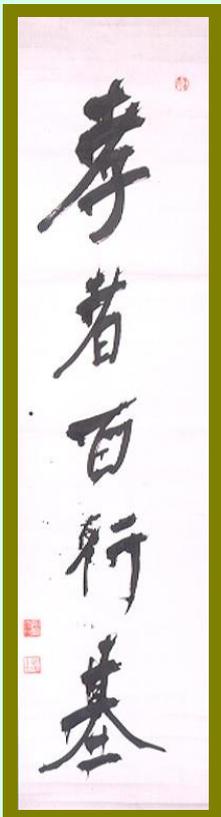
書作品には、扁や旁がくっついたり離れたり、傾いている文字のものや、行間の広さがまちまちに歪んでいるものもあります。部分で見ればアンバランスとも言える形態や構成が、ひとつの空間として捉える時、絶妙なバランスを取っていることに気づくことでしよう。今回、上條信山作品を中心に、宮島詠士と目下部鳴鶴の作品も展示します。アンバランスの中のバランスから生まれる響きや余韻、美しさ、作家による表現の違いなどをお楽しみください。



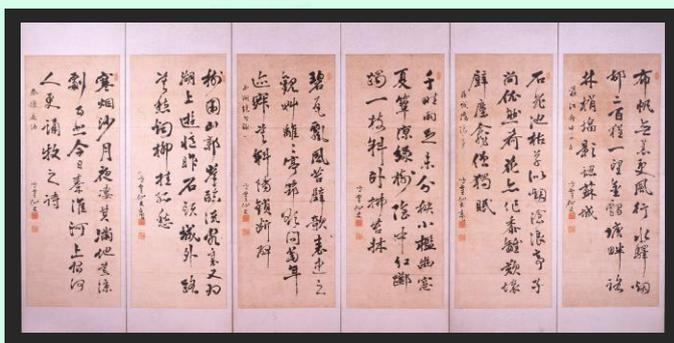
上條信山《超脱》1979年



上條信山《野沢凡兆のうた》1986年



宮島詠士《孝者百行基》



目下部鳴鶴《七絶十二屏風》

